

立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金
大学院生研究 2024年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院コミュニティ福祉学研究科	
指導教員	所属・職名	氏名
	コミュニティ福祉学研究科・准教授	原田峻
研究課題名	フィンランド SOTE 改革における成人期発達障害支援の政策と課題	
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏名
	コミュニティ福祉学研究科・コミュニティ福祉学専攻・博士前期課程1年	藤井壮大
研究期間	2024年度	
研究経費	(支出金額) 95,829 円 / (採択金額) 100,000 円	

研究の概要 (200～300 字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

申請者はフィンランドにおける成人期発達障害者への支援の実態に焦点を当てた研究を実施する。フィンランドを選定した背景には、日本同様に超高齢社会が進展し、広域自治体主体で保健医療・福祉サービスの運営を目指す SOTE 改革が進行中である社会状況がある。本研究では、SOTE 改革に伴う支援制度広域化における成人期発達障害者への具体的支援事例を質的調査により把握し、その有効性と課題を明らかにする。また 2025 年度から現地大学で専門的知見を深めつつ、現地団体への聞き取り調査を行い、日本の支援制度向上に応用可能なモデルを考察する。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[発達障害] [成人期] [フィンランド]

研究成果の概要 (600～800字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、国内の成人期発達障害者、特に成人期 ADHD への支援制度改善のための知見を得る目的で開始され、当初は日本における地域共生社会の実現を主な研究対象としていた。しかし研究を進める中で、国内だけでは支援制度改革に向けた具体的な手がかりが不十分であることを実感し、海外事例の収集が不可欠との結論に至った。そこで、成人期発達障害支援に関して先進的な取り組みを行っているフィンランドを研究対象として選定し、現地調査を実施するため、立教大学の派遣留学制度に応募、2024 年度秋学期に派遣留学生として選抜された。また、本研究の実現性をさらに高めるため、ダスキン愛の輪第 45 期研修生にも選出されており、同団体を通じた調査成果の発信が可能となった。2024 年度においては、日本成人期発達障害臨床医学会への参加を通じて国内での発達障害支援における課題認識を深めつつ、国内の支援機関へのインタビュー調査も実施した。これらを通じて、国内において成人期の発達障害者、特に ADHD を有する成人の存在が十分に認知されていない現状を明らかにした。また、日本とフィンランドの障害支援における政策や制度、支援内容の比較分析を通じて、それぞれの国における課題と成功事例を整理し、相互の理解を深めることができた。これにより、両国間の知見交流の重要性を再認識し、今後の留学でさらなる詳細な分析を進めるための基礎的な研究基盤を構築した。2025 年度からはフィンランドに留学し、現地大学での研究および関連支援団体への調査を行う予定である。

※ この(様式2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。)

該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)